

# 哀悼一金福童ハルモニ 「戦争のない世界」を求めた ハルモニの遺志を 引き繋いでいこう!



## お別れのことば

1月28日、金福童ハルモニが逝去されました。

ハルモニは日本軍の性奴隷とされ戦場で亡くなった、あるいは名も知れず生きてこられた数多くの被害者たちの象徴となり、世界各地を回って日本の心からの謝罪と賠償を訴えてきました。武力紛争下の性暴力被害者支援をはじめ、朝鮮学校に学ぶ在日の子どもたちへの支援など、平和と人権を実践し、差別や戦争のない、二度と性暴力被害者を生まない世界をつくるために生涯力を尽くされました。

4日間にわたる葬儀の間、大統領をはじめ、全国から訪れる市民らの列は途切れることなく、その数は6千名を超え、2月1日の出棺、日本大使館前までの行進と市民葬には1千名が参加しました。「慰安婦」問題を民族の恥とし、被害の訴えに背を向けてきた韓国社会の変化はまさに金学順ハルモニ、金福童ハルモニらサバイバーたちが自らつかみ取った成果でした。

2012年8月、橋下大阪市長(当時)が「『慰安婦』という人たちが軍に暴行、脅迫を受けて連れてこられたという証拠はない」と発言するとハルモニは「私が証拠だ」と市長に面談を求め、拒否されました。翌年5月にも「戦場で戦う兵士に『慰安婦』は必要」と発言、世界中から非難を浴びました。後継者である吉村市長も引き続き、「慰安婦」メモリアルをめぐるサンフランシスコ市に抗議、姉妹都市を解消するなど、恥ずべき行為を繰り返しており、私たちの闘いはまだまだ続きます。

名乗り出してから27年間というもの、休むことなく行動し、苦しむ人々を励まし、希望を語り続けたハルモニ、私たちはハルモニが築いた世界の性暴力被害サバイバーたちとの連帯と、切り拓いた地平をしっかりと歩んでいきます。

ハルモニ、これからもナビ(蝶)となって、どうぞ私たちを見守ってください。

2019年2月6日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク